

三好市立池田中学校

1 学校の概要

- ① 生徒数 308人（平成25年12月現在）
- ② 校訓 至誠・敬愛・志高
教育目標 一人一人を大切にした教育を推進し個々の生徒の持つ力を伸長するとともに、自他を尊重し、豊かな心と生きる力を身につけた生徒を育成する。



高台から池田中学校を望む
(左手奥の建物が池田中学校で手前は池田高校)

③ 環境目標・テーマ

人と環境にやさしい学校づくり

～地球規模で考えて足元から行動！～

- 1 地域の身近な自然に親しむ。
- 2 生活の中の環境問題に関心をもつ。
- 3 生徒・職員が一丸となって環境への負荷が少ない学校生活を創造する。

右：池田中学校の校舎



2 行動方針

- ① 学校における節電・節水に努める。
- ② ゴミの排出を抑制するとともに、ゴミの分別に努め、リサイクルの輪にのせる。
- ③ 物を大切にし、リユースに努めるとともに、環境配慮型の製品の使用を進める。
- ④ 身近な自然に親しみ、環境保全に関心をもつ。

3 行動〔実践例〕

① 節電の取り組み

本校は、全教室に冷暖房が完備されており、夏と冬は電気の使用量が大幅に伸びる。そこで、生徒にも教職員にもその推移がわかるように、学校の玄関ホールに環境掲示板（写真左）を設け、開校以来の電気使用量の変化（月単位）をグラフにして掲示している。夏場は、「節電生活を続けよう！」というメッセージも添えた。また、照明スイッチには、生徒がデザインした節電ステッカー（写真右）を貼るなど、節電意識の向上を図ってきた。



② ゴミの排出抑制と資源の回収



生徒会専門委員会が中心となって、学校生活におけるゴミの排出抑制に取り組んでいる。給食委員会は、定期的に給食の残量調べをしている。（写真左）計量結果を一

覧表にして公表し、食べ物への感謝・バランスのよい食生活と併せて環境への配慮という側面から、完食を呼びかけている。生徒会主催の学校祭では、環境委員会がゴミステーションを設置し、模擬店から出るゴミの分別を徹底している。(写真中央)また、ボランティア委員会は、町内一斉クリーン作戦に参加し、地域の方々と協力してゴミ拾いをした。無造作にうち捨てられるゴミは景観を悪くするだけでなく、リサイクルの輪に乗せられる物も多くあることを体験的に学んだ。(写真右)

③ 環境配慮型の生活の提案



環境サークルホテルと共に暮らし隊は、学校祭の模擬店で出た廃油を原料に石けんを手作りし、校内の清掃に役立てたり地域や保護者に配布したりして、循環型の生活を提案している。(写真)また、職員室では、印刷用紙は植樹林木100パーセントの製品を利用し、その他の消耗品も努めてエコマーク商品を選択するなど、学校生活そのものを環境配慮型にしようと努めている。

④ 自然に親しむ活動



年間を通して自然に親しむ活動を行っている。学校菜園では、サツマイモや夏野菜を栽培し(写真左・中央左)、土や水・太陽といった大きな自然の力を肌で感じると共に、収穫したものを全校生徒で分け合って食べた。また、ホテル観察会・天体観測会・ネイチャーゲームなどを通して、自然を五感で捉えるような機会を多くもった。

黒沢湿原のサギソウの保護活動は、今年で10年目になる。三好高校・地域のボランティア団体との協働で、バイオテクノロジーによってサギソウを増やす活動を続けている。今年も、8月に苗を移植した場所の観察(写真中央右)に行き、秋には今年採れたサヤを使って無菌播種(写真右)に取り組んだ。

4 具体的成果

- ◆グラフの掲示や節電の啓発と併せて、最大デマンドを抑制することで使用電力の削減につながった。
- ◆環境保全や環境問題への取り組みを学校の特色の一つとして認識する生徒が多く、環境意識の向上を図ることができている。
- ◆地域や家庭と連携した活動を展開することができた。

5 改善点

- ◆活動を一部の生徒だけ、ある期間だけのものとせず、全生徒・全教職員が参加し、継続的に取り組めるような手立てを考える。
- ◆機会あるごとに活動内容を振り返り、改善を加えつつ取り組んでいく。
- ◆教室・職員室での4Rを推し進める。